

令和5年度第1回北海道立図書館協議会 議事録

日 時：令和5年8月3日（金）13：30～15：00

会 場：北海道立図書館 研修室

出席者：協議会委員9名、道立図書館職員12名

傍聴者：0名

議事等

1 議題

- (1) 令和4年度業務実績報告について
- (2) その他

議事録（○～委員の発言 ●～道立図書館職員の発言）

●（岡部真希管理課長）

議事進行につきましては、河村会長にお願いしています。

それでは、河村会長様、よろしく申し上げます。

○（河村芳行会長）

皆様方の活発な御意見をいただきながら、効率的に議事を進めてまいりたいと思います。本日はよろしくお願ひいたします。

本日の議題は、資料1、2、3を用いての「令和4年度業務実績報告」について、それから、その他といたしまして資料4を用いての「令和5年度図書館運営計画（重点計画）」について、もう一度おさらいをしていただくこととなっています。

それでは、議題の「令和4年度業務実績報告」について、図書館側の方から説明をお願いいたします。

●（桑原裕子利用サービス部長）

議題 令和4年度業務実績報告について

資料1 令和4年度道立図書館事業の実施状況の概要 説明

資料2 令和4年度北海道立図書館業務実績報告書 説明

●（工藤嘉一一般資料室長）

議題 令和4年度業務実績報告について

資料3 北海道立図書館電子図書館 説明

○（河村芳行会長）

ありがとうございました。

令和4年度の業務実績のお話ということで、スライドを用いて御説明いただきました。事前に配付されています業務実績の概要というのが、分厚いものがあると思いますが、45ページにわたる詳細な報告書を事前に送っていただいています。今、スライドで、視覚的に写真を用いて御説明いただいて、大変分かりやすかったのですが、45ページの詳しい内容を、資料1としまして概要をまとめてくださっています。概要を基に振り返っていただきまして、ただ今説明いただいた内容について、御質問や御意見がございましたら、御発言願いたいと思います。

冒頭に説明がありましたように、議事録作成のため録音させていただくことですので、御発言の前にお名前をおっしゃっていただいて、マイクを使って御発言いただければと思います。

どなたからでも構いませんので、御質問、御意見等ございませんでしょうか。よろしく願いたします。

○（加賀学委員）

北海道町村教育委員会連合会から出席をしています、十勝管内池田町教育委員会の加賀と申します。よろしく願いたします。

2点、質問させていただきたいと思います。

1点目は、昨年度の会議でも御説明があったかもしれませんが、最初の説明の中で、4年度の実績として、重点支援地域が上砂川町で行われたというのがありましたけれども、この重点支援地域はどのようにして選定されるのか、それから、重点支援地域に対して具体的にどのような支援が行われるのか、もう少し詳しく教えていただければと思います。

もう1点は、電子図書の関係なのですが、私がいます池田町でも、今年度中に電子図書導入ということで準備を進めているところで、説明の中で、登録数が伸びているという状況は分かりましたが、電子図書を導入、あるいは進めていくに当たっての課題が何かあれば、私どもの今後の参考として教えていただければと思います。

以上2点です。よろしく願いたします。

●（西岡祐子企画支援課長）

ただ今の御質問2点の中の1点目、上砂川町への重点運営支援に関しまして、選定について、それから、事業で具体的にどのようなことをしているのかといったことについての御質問であったと思います。

選定についてですが、上砂川町の場合は、希望をいただいて決定したところですが。判断の基準につきましては、基本的には、運営に関しての課題ですとか、そういったようなものをお持ちで、図書館としてもより良くしたいといったことはもちろんなのですが、例えば、これまで重点運営支援を受けていないことですとか、あるいは、それ以降の見通しとして、図書館条例を制定する見通しがあって、図書館化に向けて動きたいといったような希望がある町ですとか、そういったようなことなどを勘案して決めています。昨年度の上砂川町につきましては、具体的に将来的な条例の制定ですとか、図書館化ということがあったわけではありませんけれども、活動をされていく中で、どうやっていったらよいのか分からない点がある、活発な活動をしてみたいけれども助言が欲しいといったような強い希望がありましたので、それに応えたいということで、重点の市町村として決定いたしました。

内容につきましては、1年間を通して運営相談といったようなことを行いますけれども、まずは年度当初に伺いまして、実際の図書室の状況ですとか運営の状況について聞き取りを行います。その中で、運営上の課題ですとか、年間を通じてどのようなことを行っていきたいかといったようなことの打合せを行います。内容、メニューとしましては、大抵行うのは、図書館・図書室の環境改善です。本の並べ方、あるいは見せ方がより魅力的になるように、本のレイアウトなどについて、それから、利用者を引き込むためにはサインなどをどのようにしたらよいかといったようなことや、そもそもの資料の選び方、除籍の仕方に関する考え方について相談に乗るといったようなことを通じて、年間2回ないし3回の運営相談を行っています。

昨年度の上砂川町の場合には、まずは図書室内の環境改善についてお話をしました。分かりやすくするために、本棚にどのような表示をするとよいのかということと、本棚にある古い資料を除架・除籍して、新しい新鮮な資料のみを利用者の目に付く所に残すための、除架・除籍をするための考え方などについて説明しながら、実際に書架の前に立って資料を取り除く作業を行ったりしたほか、資料の展示のアイデアをお示ししたり、実際に展示する本をお送りしたりといったようなことも行っています。

それから、最後は資料の選択の仕方についてもお話をしました。子どもの本、児童書と読み物、小説等に偏りがちな選書でありましたけれども、重点運営支

援の中では、年間800冊の本をお送りするというも行っているのですが、その中には、子ども・児童書や読み物以外の、実用書と言われる社会科学の本ですとか、自然科学の本ですとか、産業の本など様々な分野の本を貸し出しますが、そういったような本を実際に町民の方に利用していただくことを通じて、町としても、児童書や読み物以外の本が使われるのだということを感じていただきました。その結果、少しずつではありますが、本の選び方についても、「子どもの本、読み物以外の本についても選んでいきたい」といったことをお話しいただいたりしました。

そういったようなことで、環境改善や資料の選択・除籍、実際の運営に当たっての魅力的な図書室の見せ方といったことを、年間を通じて情報提供させていただきました。

●（工藤嘉一一般資料室長）

続きまして、2番目の電子図書館の導入における課題について、私の方から回答させていただきます。

まず、課題として考えるところでは、様々な電子書籍のサービスがありますので、どれを選択するかというところの検討が、一番の課題になろうかと思えます。このシステムそれぞれの特性ですとか、コンテンツの内容もありますし、あとは、我々の例で言いますと、ランニングコストが掛からないというところを軸の一つとして、現在の紀伊國屋書店の「KinoDen」を選択していますけれども、運用コストをしっかりと予算化して確保する中で、貸出タイプのシステムにするのか、閲覧タイプにするのか、他社はどちらかと言うと貸出タイプが多いのですが、そういった貸出タイプ、閲覧タイプ、こういったところを選ぶのか、それから、他社のもので言いますと、例えば50回利用があったらそこでクリアになるので、新たにコンテンツの利用権を購入しなければならないというところもありますことから、こういった形でサービスを提供して、こういった形で予算を確保していくのかという検討が一番の課題になろうかと思えます。予算要求をする中で、恐らく色々な会社のシステムを検討することになるのではないかと思います。その中で、町に一番合うのはどれかというところを検討して、進めていくのがよいのではないかと考えているところです。

「KinoDen」についてお話ししますと、どちらかと言うと読み物より調べ物や実用書に強いということはあるかと思えますけれども、他社では読み物がしっかり入っているところもありますので、こういった形で展開していくのかというところの検討が、恐らく一番の課題になろうかと思っています。

○（加賀学委員）

ありがとうございます。

○（河村芳行会長）

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

○（平野由香委員）

紋別市立図書館の館長の平野と申します。よろしく申し上げます。

市町村支援の推進の中で、私たちのように遠くに離れている一般の図書館としましては、協力貸出サービスを頼りにしているところでありまして、昨年度は153市町村に22,596冊、そのほかにリクエストでも多くの本を購入していただいているのですけれども、今、道立図書館も直接サービスで他の図書館から借りられているという話を聞いておりまして、統計の数字を見た時に、貸出しをした図書館の、どこに何冊貸し出したかというのは分かるのですが、どこからどれくらい借りたのかということも分かるように資料を作っていたら、参考になるのではないかと思います。この協力サービスについては、お互い様というところもありますが、その辺りが、私が図書館から離れている間に色々なことが変わっていった中の一番大きなことかと思っています。その辺りが明確になると、よく借りられる側の市町村の公共図書館は、より納得されるのではないかという気がいたしました。

また、研修事業で、この頃オンラインが増えてきて大変嬉しいのですが、北海道は広いので、遠い所から職員を派遣したいけれども、子どもの読書活動推進計画を始めてから学校への貸出しの量が増えて、なかなか個別の職員が研修会に2日、3日留守にするということが厳しい状況になっておりまして、是非、オンラインと、去年の全道大会の時のようにアーカイブとして公開していただくと、空いた時間で学びを得ることができるのではないかと考えておりまして、その辺りの充実を、今すぐではなく、2、3年かけて行っていただければありがたいと考えていました。

それから、広い北海道の中で、大変御苦労されているのだろうなというのは分かるのですが、どんどん若い職員の方に、地域の図書館に来ていただければと思っています。今、司書会などに入っている方も少ないかと思えますけれども、そういった中で色々なコミュニケーションを取っていくと、道立と市町村の連携がうまくいくのではないかと考えています。

質問というよりお願いばかりなのですが、是非、電子図書館の利用申込みな

ども、遠い町にも出張して来ていただければと思っています。私は、今日、初めて利用登録をしてカードをいただいたのですが、そこに行き着くまでが、なかなかきっかけがないと、もちろん郵送でカードを送っていただけるというのもあるのですけれども、連携がうまくいってくると、市町村の窓口で受け取れるとか、そういったこともできるのではないかと思います。まだまだ、道立図書館の活動を知っていただくとか、道立図書館の本も自分たちの借りられる本なのだということを知っていただく活動への協力の仕方というのものではないかと思っています。

質問としましては、子どもの読書活動推進計画は紋別市も今年度が策定年度となって、国や道の計画などを参考にさせていただいて、これから、読書バリアフリーや電子図書館、紋別市は電子図書館を導入させていただいているのですが、そういった中で、市町村に対して、読書バリアフリーについてどのように啓蒙活動を行おうとしているのかというところをお聞かせいただければ、令和4年度の話ではありませんけれども、道立として読書バリアフリーをどのように取り入れていこうと考えているのか教えていただければと思います。

●（原美代子一般資料サービス課長）

道立図書館における協力貸出しが、どこの図書館からどのくらい借りたのかということですが、こちらの方で控えがあるはずですので、次年度以降、お見せすることができるかどうかについては検討させていただきたいと考えています。

●（西岡祐子企画支援課長）

2番目の御質問、研修をオンラインで行うこと、それからアーカイブのことについてのお話であったかと思います。

道立図書館といたしましても、当初はコロナのことがあって、集まることができないというところから始まったオンラインでの研修ですが、何回か実際に開催してみることを通して、これはコロナかどうかに関係なく、広い北海道において、様々な市町村の方に御参加いただくための手法として、オンラインという形を必ず年1回は入れていくということで、去年は、中堅職員研修会をオンラインで行うということを初めから決めて実施しました。今年度も、冬に行う専門研修につきましては、冬になって雪が降ってまいりますと、道立図書館まで交通機関を使っての移動がなかなか難しかったり、あるいは、平野委員のおっしゃったように、業務に携わりながら、広い北海道において集まるのが難しかったりというところで、12月になるかと思いますが、冬の専門研修をオ

ンラインで行う予定で考えています。それは、今後においても、研修の持ち方の一つとして考えていくことになろうと思います。

それから、アーカイブにつきましては、研修の内容や講師の方のお考えなどにもよるのですが、昨年度も、専門研修のうちの一つで、実際の研修が終わった後においても、期間限定で動画が見られるようにするといったようなことを行いました。それから、昨年度の図書館大会のこともお話しいただきましたが、今年度の大会においても、全部ではないのですけれども、講師の方にお許しただけのものについては、後日、アーカイブとして、一定期間見ていただけるようにすることも考えています。また、各種研修においても、動画のアーカイブとはならなくても、例えば、配付資料などを公開して構わないというお許しをいただけたものについては、市町村の図書館の司書の方々にも見ていただけるような形で載せていきたいと考えています。

●（原美代子一般資料サービス課長）

3番目の電子図書館の出張登録会についてです。昨年度は、近場の武蔵女子短期大学と紀伊國屋書店で開催させていただいたところですが、遠方においても希望があるということは伺っています。今年度につきましては、近場になるのですが、小樽市で開催しようという計画が出てきています。予算の問題等もありますので、はっきりとお答えしづらいところではあるのですが、例えば、市町村の図書館の窓口で、道立図書館の利用者カードの登録の途中までを引き受けてくださるとか、そういうことが可能だろうかといったところを検討している最中です。ある程度具体的な方法が提示できるような段階になれば、また皆様にお諮りできたらと考えているところです。

●（西岡祐子企画支援課長）

先ほどのオンラインの研修の件で、1点訂正がございます。今年度のオンラインによる研修の開催は、令和6年1月に予定している利用者サービスの専門研修において予定しています。

●（桑原裕子利用サービス部長）

読書バリアフリーのお話ですけれども、子どもの読書に限らず、読書バリアフリーについては、大活字本ですとかLLブックですとか、読みやすいように作られた本が出てきてはいますが、そういった本は出版点数があまり多くはありません。しかし、そのような状況の中でも、当館の収集担当の方では、できるだけ意識的に収集をするということで考えています。

それから、市町村に対してというところですが、読書バリアフリーとして使うにはどのような種類のものがあるのか、例えば、まだLLブックを見たことがないという市町村の方もいらっしゃいますので、見本として「読書バリアフリーセット」のようなものを御用意して、まずはそういうものから、市町村の図書館・図書室の方に知っていただくというような形で、道立図書館としては支援していきたいと考えています。そうした広報活動についても、これから進めてまいりたいと思います。

○（河村芳行会長）

ありがとうございました。

あのコロナ禍があって、3年の間に、色々これまで使われていなかったと言ってもよいような技術、ICTの技術が使われたわけですが、コロナが収束し始め、落ち着き始めてきた中で、今後も生かしていけるようなものがあるのであろうということを思いながら、お話を伺っていました。

電子書籍というものが、遠隔サービスとして、非来館型サービスとしてのものと、それから、北海道は広いですので、お話があったように研修をオンラインで行って、アーカイブ化というお話もありましたけれども、なかなかこれは難しいのかなという気も少ししています。期間限定ということで、当日参加できなかった方に、後日、閲覧してもらえるとという形は可能ではないかと思います。それから、色々なサービスの在り方、北海道全体ということですので、電子書籍がかなり大きなチャンスを持っているかと思います。道立図書館が電子書籍を重点的に準備していけば、市町村の方は、近隣住民への直接サービスということで徹底していけるのではないかという気もしていますし、これは検討課題かなということを考えながら、今、伺っておりました。

他の委員の方で、御質問はありませんか。

○（福田都代副会長）

北海学園大学の福田です。

質問なのですが、北方資料のセンターとしての資料の収集・保存の充実、8ページ目の大きな表の下の方に、「北方資料サポーター」という項目がありますけれども、これはどのような人から協力を得ているのかをお聞きしたいのと、あともう1点は、質問というより可能性、アイデアなのですが、日本ハムと読書キャンペーンという形でせっかく協力しているわけですから、エスコンフィールドで道立図書館の何かをPRするとか、そういうチャンスがあったら積極的に活用してはいかがでしょうか。私はまだエスコンフィールドに行ったこ

とがないので、どういう建物か分かりませんが、日本ハムとすでに提携しているのであれば、断られることはないのではないかと思います。

●（一戸泰北方資料サービス課長）

「サポーター」という名前を付けさせていただいているのですが、事実上はボランティアの方だとお考えください。結構長い方が多く、今回、人物・文献目録のことを紹介させていただきましたけれども、デジタル化ですとか、かなり精密な作業をお手伝いいただいております、それで少し意味合いを変えて「サポーター」という名前にしています。

○（福田都代委員）

社会科の先生とか、そういう人たちですか。

●（一戸泰北方資料サービス課長）

特に資格というのはありませんが、元市立図書館の方ですとか、定年退職された方なのですけれども、そういった図書館関係の方もいらっしゃいます。

●（桑原裕子利用サービス部長）

エスコンフィールドでの広報、行ってみたいですね。今回、日本ハムと協力して展示を行っているのは、1対1というよりは、日本ハムが募集をかけて、全道の図書館にチラシや広報物を提供してくれているもので、それに応募すると野球の招待券が当たるという形のもので、道教委とも包括連携協定など色々関わっていますので、エスコンフィールドまで行けるかどうかは分かりませんが、機会を捉えて、できるだけ連携企業と一緒に広報活動もしていきたいようにと考えています。

○（河村芳行会長）

ありがとうございます。

他にございませんか。まだ御発言なさっていない方、どうぞ。

○（吉田雅代委員）

吉田です。よろしく申し上げます。

閲覧数の多いコンテンツというのを見ていて思ったのですが、私も実際に1番の『空間の美しい札幌のカフェ』というのを電子図書で見て、「ああ」と思って図書館に来て実物を読んだということがあります。この電子図書に公開され

ているものについては、実際に道立図書館に本があるのだろうかと思って蔵書検索をしたのですが、別の本では「ない」という結果も出てきます。全部が全部あるわけではなくて、実際の本がない場合もあるということについて、それが電子図書のどこかに表示されているのでしょうか。例えば、電子図書で見ても、実際の本でも読んでみたいと思って図書館に来て、それがなかったら、「ああ、ないのか」と感じてしまうと思うので、もし表示がないのだとしたら、表示するようにカスタマイズすることはできないのだろうかと思いました。

それから、バリアフリー関係のことなのですが、PRを今年の3月から始められて、実際にオーディオブックを聞かれている方の数字は、結構上がってきているものなのだろうかと思いました。私の母が高齢で、小さい普通の文字のサイズは見えないのですが、たまたま道立図書館に来たら大活字の本が本当にたくさんあって、母も歩いてここまで来るのが大変だからということで、私がここに来た機会に母の分を借りて行ったら、「こんなにあるの」と非常に喜んでいましたので、「道立図書館で大活字の本がたくさんあるということをもっと言えばいいのに」と思ったことがあります。実際にこれをPRされて、電子図書の方で利用されている方はどれくらいいるのだろうかと思ったので、教えてください。

●（工藤嘉一一般資料室長）

電子書籍で持っているもので当館が所蔵しているのは、おおよそですが3分の1程度で、残り3分の2程度は所蔵がないという押さえをしています。

リスト化の方は、私が前任の担当課長だったもので、きちんとできていなかったと覚えているところで、少し時間は掛かるのかもしれませんが、ホームページの方にエクセルでコンテンツの一覧を出しているのですが、そういった所には手を加えることは可能ですけれども、「Kinoden」のシステムの方から図書館と連動させるとなると図書館システムの改修になるので、次のシステム更新の時には、どれくらいお金が掛かるかも含めて検討ということになります。他の県立図書館ですと、システムの検索の方と連動させて、検索の方に電子書籍があったら電子書籍の方に直接飛ぶというような改修をしている所もありますので、恐らく、「Kinoden」から道立図書館の方に入ってくるのは難しいと思いますが、道立図書館の検索の方から入っていくのは、技術的には可能ではないかと思えます。何分お金の掛かることですので、図書館システム全体の改修の中で可能かどうかの検討をしていくことになろうかと思っています。

それから、バリアフリーコンテンツについては、今年度から始まったことな

ので、参考として、私の方で今回の資料を作るに当たって数字を取ってみました。大体上位20の中で、何点かはオーディオブックが食い込んでいました。三国志の朗読物と、もう1つ、2つくらいの1巻部分が上位に入っていて、確か20位の中で2つか3つくらいは入っていたと思います。

それから、追加情報になりますけれども、このオーディオブックは、スマートフォンなどで閲覧するための専用のリーダーを使って聞くことができるというものであったのですが、普通のインターネットのブラウザでも聞けるようにできるかもしれないということを、当館担当の営業の方がおっしゃっていました。私も最近になって把握したのですけれども、6月末ぐらいからブラウザの方でも聞けるようになったので、割とどなたでもオーディオブックを使えるという状況になっていることから、もしかしたら7月以降、数字が少し上がってくるのではないかというところもあるのですが、その点についても、担当課と相談しながらPRを進めていこうと考えているところです。

○（河村芳行会長）

ありがとうございました。

時間の関係もありますので、次の議題に移らせていただきたいと思います。議題2のその他の事項について、図書館の方から、説明をお願いいたします。

●（山崎純平総務企画部長）

その他

資料4 令和5年度図書館運営計画（重点計画） 説明

○（河村芳行会長）

ありがとうございました。

恐縮ですが、「ICT技術」という言葉はあるのでしょうか。文章の中に「ICT技術」という見出しが、2ページ目などに出てきますが、「技術」の部分は不要ではないか、「T」にテクノロジーが入っているのではないかと思いました。括弧書きで「情報通信技術」などと入れるのであればよいと思うのですが、見出しに違和感を覚えました。

●（山崎純平総務企画部長）

御指摘ありがとうございます。

○（河村芳行会長）

時間ですので、先に進ませてもらってよろしいでしょうか。
では、今度は報告の方をよろしくお願いいたします。

●（岡部真希管理課長）

報告

1点目 長寿命化工事について 説明

2点目 道立図書館創立100周年について 説明

○（河村芳行会長）

ありがとうございます。

報告をいただきましたが、何か御質問や御意見はございますか。

一通り議題は終わりましたが、全体を通して御意見等はございますか。

それでは、ちょうど時間となりましたので、何もなかったら、以上で予定されていた議事を全て終了いたします。

委員の皆様、本日も活発な御発言、御意見等いただきまして、ありがとうございました。